

40周年を迎えた桑高衛生看護科

桑高に衛生看護科が出来たのは1974(昭和49)年であった。今年で40周年になる。旧桑名保健所・土木事務所の庁舎(桑名市常磐町・現在の桑名市社会福祉会館の場所)を仮校舎として開校した。定員は1学年40人だった。この定員は現在まで変わらぬから、約1500人が巣立ち、看護師として各地の病院・医院などで活躍している。

75年10月に市内大字東方字尾弓田に新校舎の敷地造成工事が始まり、77年に新校舎と体育館が完成した。2万4千余㎡の敷地に4階建ての校舎と体育館があり、分校と言うよりも独立校としても通用する威容があった。

77年3月に第1回の卒業式が行われた。そして4月には専攻科が始まり、18人が入学した。うち11人が桑高衛生看護科の出身であり、他校からの入学もあった。1年後には専攻科も2学年となり、ここに5学年が揃って、修学旅行、文化祭、体育祭、『潮風』(本科生徒会・専攻科自治会発行)、各種クラブなど分校だけの活動も順次本格化していった。

80年に伊勢市で行われた全国看護高等学校長協会秋季総会・研究協議会、82年に桑名市民会館で行われた東海4県高等学校衛生看護科研究協議会、92(平成4)年の四日市市で行われた全国高等学校衛生看護科・専攻科研究協議大会という大事業を本校が主管している。

クラブ活動では90年に分校硬式テニス部が三重県予選・東海地区予選で勝ち抜いて、仙台市で行われた全国大会に出場する快挙を成し遂げている。1学年1学級の小規模校が1学年10学級以上マンモス校を負かしたのである。

94年には創立20周年記念同窓会が四日市都ホテルで盛大に開催された。2002年から本科・専攻科を通した5年一貫課程が設置され、最初から5年一貫課程を学んだ生徒は07年に36人が修了証書を受け取った。36人のうち、桑名市民病院・山本総合病院・三重県立総合医療センター・いなべ総合病院へ各5人が就職した。

03年の創立30周年記念行事は専攻科の生徒による研究論文の発表があり、分校にふさわしい行事であって、今後の発展が期待された。しかし桑員地区に特別支援学校設置の請願が07年にあり、紆余曲折があったが、結局は衛生看護分校の建物は特別支援学校に明け渡され、分校は11年に廃止となった。そして衛生看護本科・専攻科とも桑高本体に吸収された。5年間同じクラスメイトであることには変わりがないが、体育祭・桑高祭など他の学科の生徒とも交流が出来るようになった。

今年(14年3月)の専攻科修了生35人のうち、進学は2人で、あとは病

院に就職したが、多いのは海南病院（弥富市）7人、三重県立総合医療センター（四日市市）6人、名古屋第一日赤と鈴鹿病院各4人で、桑名市内では桑名東医療センター（旧山本病院）1人だけであった。桑名市では旧桑名市民病院、旧山本病院、旧平田循環器病院を統合した桑名市医療センターを設立し、建物の新設を決めたが、

入札に応じる業者がなくて、建設が出来ない現状である。そんな不安定な状態のため、就職を避ける生徒が多かったのだろう。なにしろ100倍ほどの求人率なのだから。

なお、特別支援学校では校舎が不足し、運動場に新校舎を1棟建て増して、このほど完成した。テニスコートの北の植え込みを削り、入口の通路を広げた。片隅にあった「山桃」植樹の記念碑は移転されている。



現在の特別支援学校（2014年8月末）
左手のフェンスの左がテニスコート
その向こうに新校舎（3階建て）



移転された「山桃」植樹記念碑